2017年度　帰国隊員/青年支援プロジェクト　実施報告書　　提出日　　2018年　10月　31日		
氏名：　伊原真央	実施国：ボリビア	協力活動
活動名称	ボリビアでの子どもたちの基礎学力定着を目指した、教員の指導力・授業力向上プロジェクト	
実施期間	2017 年 5 月 1 日 ～ 2018 年 11 月 10 日	

（1）申請した動機

2013年８月から2015年３月まで小学校教員として活動をした。活動が軌道にのり、教員のやる気・意欲も上がってきたところでの帰国となった。ボランティアがいなくなった後も、学校長を中心に継続して授業改善に取り組んでおり、個人的に2016年１月・8 月にボリビアを訪れ、フォローアップのための追加研修を実施した。そんな中、今の状態では限界があるとの相談も受け、日本の指導法や授業法をもっと知り、さらなる授業改善に努めていきたいという強い要望があった。

そこで、現職でのボランティア参加であったが、2017 年３月に退職し、2017 年４月からボリビア・ラパスに移住し、グアテマラ小学校での授業改善を学校長と一緒に進めることにした。ボリビアの中で一番と言ってもいいほどに素晴らしい学校、素晴らしい授業ができるようになってきた教員がいるので、これまでやってきた活動をさらに深め広げたく、帰国隊員プロジェクトに応募した。

（2）活動内容概要

①研修開催～教員に学ぶことの楽しさを実感してもらい、教員の指導力・授業力向上を目指す～

私と学校長の他に、グアテマラ小学校教員も講師になってもらい、日頃の様子を交えて研修を開催することで、さらに説得力のあるものにする。基本的な考え方ができてきたグアテマラ小学校教員には教える側にも立ってもらい、さらに指導力・授業力に磨きをかける。

・グアテマラ小学校教員等対象の研修開催
・近隣校教員等対象の研修開催
・スクレ県・タリハ県小学校視察・教員への研修開催・ボランティアとの働き方レクチャー
・ラパス・教員養成校訪問・公開授業等（学生対象）

②校内・校外公開授業開催～定期的に校内・校外授業の機会を設けることで、教員同士が学び合い、高め合う場を設け、教員の指導力・授業力向上を目指す～

他校教員や教員養成校の学生等、より多くの参加者を招くことで、授業改善方法等を学んでもらう。

・示範授業開催
・グアテマラ小学校全教員での校内公開授業開催
・他校の教員や教員養成校の学生を招き、校外公開授業開催

③本の作成～学びを忘れず、さらに広め深められるように本を作成する～

・グアテマラ小学校での実践集作成
・研修のまとめ集

（3）活動の成果・苦労した点・反省点等

・グアテマラ小学校教員等対象の研修開催
・近隣校教員等対象の研修開催

〇グアテマラ小学校の教員には、積み重ねてきた算数は継続し、最も悩んでいる国語科を中心に研修を行った。たくさんの例や示範授業を通して、国語科の基本的な授業展開を理解し、実践し始めている。また、これまで学んできたことを他の教科にも生かす姿も見られた。

〇グアテマラ小学校での活動を他校の教員にも広げることができた。

〇どの研修でも楽しく考えさせる授業を提案していくことで、授業を通して、教える楽しさや充実感を味わってもらうことができた。そうした積み重ねが、日頃の授業改善に取り組む姿勢に繋がっていた。また、学校長と共にグアテマラ小学校の教員を講師として活動させたことで、実践に自信を持つことができ、さらに中核教員として学校長と共に授業改善に積極的に取り組むことができている。

△他校の教員の実態を把握しないまま講座を開催してしまい、教員のレベルに応じた準備をする必要があったと感じた。

△不定期開催となったため、参加者にばらつきがあった。

・スクレ県・タリハ県小学校視察・教員への研修開催・ボランティアとの働き方レクチャー

〇スクレ県・タリハ県訪問では、JICA ボリビア事務所ボランティア調整員と連携して活動し、今後着任する隊員の配属先を訪問することができた。そこで、実際に私たちが行ってきた活動で教員・子どもたちがどう変化してきたのか話すことができた。また、他県の教員との繋がりもつくることができ、お互いにとってとてもいい刺激になった。

〇学校長と教員と一緒に訪問できたことがとてもよかった。自分たちの経験を語ることで、自信に繋がり、授業改善に対するモチベーションも上がった。帰ってきてから同僚にフィードバックすることもできた。

△配属先によって、受け入れ準備に温度差があった。あまりボランティアに対して期待を膨らませすぎるのもよくなかったのかもしれない。

△予算がなければ実現できない活動だったので、今後どのように展開していくのか考える必要がある。

・ラパス・教員養成校訪問・公開授業等（学生対象）

〇今年設置されたばかりのラパスの教員養成校小学校教諭部と活動することで、今後小学校教諭になる若い学生たちに指導力・授業力の基礎や授業改善法を学んでもらえた。実際に子どもたちの姿を見せられたことで、学生の中から今後のボリビア教育の質向上に繋がると好評だった。

〇教員養成校で授業したことが子どもたちにとっても自信になったようだった。誇らしげに授業を受けている姿がとても印象的だった。

〇子どもたちを送迎するのに保護者がかなり協力してくれたのでよかった、

〇学生に小学校に来てもらえるとよかったのだが、難しかったので、子どもたちを連れて行って授業を見せた。これをきっかけに、グアテマラ小学校での公開授業に参加する学生が出てきた。

△単発で終わってしまうのではなく、継続的に行っていく必要がある。

・示範授業開催

〇具体的に目指す授業を教員に示したことで、より明確に目指す授業像を共有することができた。

・グアテマラ小学校全教員での校内公開授業開催

〇全員が公開授業を経験したことで、授業を参観する視点がしっかりできた。

△新しく来た教員には難しいので、一人一人の力量に合わせたハードルを設定する必要があった。

・他校の教員や教員養成校の学生を招き、校外公開授業開催

〇公開授業を通して、実際に授業を受ける子どもたちの様子を見てもらったため、教員は授業改善後のイメージを具体的に持つことができた。

〇授業改善の一つの方法、公開授業を知ることで、それぞれの学校で実践することも可能になった。また、グアテマラ小学校を知ってもらうことで、教員のコミュニティができ、相互に刺激しあいながら指導力・授業力を高めあうきっかけとなった。

〇予算がない中、プロジェクト費に頼るだけでなく、教員たちが率先してお金を生み出す努力をしていた。（ポップコーンやフルーツを売る。教員たちからお金を集める等）

・グアテマラ小学校での実践集作成

・研修のまとめ集

〇実践や研修で使用した教材等を冊子にまとめることで、いつでもすぐに使えるようにできた。

〇日々の授業に追われている状態の教員にとって、冊子があることで授業のヒントとしてすぐに活用してもらえることを期待している。

△著作権のことまで考えていなかったため、冊子の中のものをコピーされ他で勝手に使用されてしまった。今後対策が必要である。

（4）今後のプラン

活動終了後も、ボリビアに住んでいるため、グアテマラ小学校と関りをもち、教員の授業改善を引き続き見守り続けていくつもりである。学校長と講師を経験したグアテマラ小学校教員を中心に、ボリビア人だけで実りある公開授業や研修を開けることが理想である。教員同士の繋がりが途切れてしまわないようにも注意していきたい。もちろん要望に応じて、研修等私にできる限りの手伝いはしていきたいと考えている。ボリビアに新しくやってきたボランティアとも連携し、活動が繋がり、積み重なっていくように見守っていきたい。